

# 北方墓参

## 北方墓参

北方墓参は、北方領土問題とは別に、人道的観点から元島民等が旅券・査証なしの簡単な身分証明書により、先祖の眠る北方四島を訪れ、お墓参りをすることを目的として実施しているものです。

北海道の主催により、昭和39年から実施され、途中中断はありましたが、昭和61年以降は毎年実施しており、今年度の実施で通算42回目となります。これまで北方四島に52箇所ある全ての墓地で墓参を実施しています。今年度は3回の実施予定でしたが、1回目は低気圧による強風のため中止となり、2回の実施となりました。

また、出入域の手続きは国後島古釜布(ふるかまづ)において行われていますが、平成28年12月の日露首脳会談において人道的措置の一環として合意された追加的な出入域地点の設置について、平成29年・平成30年(それぞれ1回設置)に引き続き、今年度は北方墓参第3班の際に水晶島台場岬沖に設置され手続きが行われました。

### 令和元年度における北方墓参実施状況

区分	実施月日	訪問先(墓地)	団員数
第1班	6月15日～6月17日	悪天候のため中止	—
第2班	7月18日～7月20日	択捉島(ウエンバフコツ、内保、ペケンリタ、オダイベケ)	51名(うち遺族33名)
第3班	7月26日～7月29日	水晶島(茂尻消、ボッキゼンベ、秋味場) 色丹島(能登呂、キリトウシ、相見崎)	49名(うち遺族33名)
		計	100名(うち遺族66名)

## 第2班 択捉島(ウエンバフコツ、内保、ペケンリタ、オダイベケ)



合同洋上慰霊の様子(内保(ないぼ)沖)



ペケンリタ墓地に続く坂道



閑静なアルトル浜(上陸地)



ペケンリタ墓地慰霊式にて追悼の辞を述べる石川副団長

第1班が悪天候で中止となったため、第2班が本年度最初の北方墓参となりました。

内保、ウエンバフコツ墓地については、外交当局間の調整がつかなかったため上陸ができず、両墓地合同の洋上慰霊を内保沖で実施しました。

その後、アルトル浜に上陸し、ペケンリタ墓地において慰霊式を行いました。途中、天候が急変し、強風が吹き荒れ、えとぴりか本船に戻るのも難儀しました。

次の上陸先であるフルベツ沖に移動しましたが、強風のため上陸は叶わず、オダイベケ墓地は船上での洋上慰霊となりました。

# 第3班 水晶島(茂尻消、ポッキゼンベ、秋味場)、色丹島(能登呂、キリウシ、相見崎)



茂尻消(もしりけし) 墓地への道中



墓標を補修する様子 (茂尻消墓地)



ポッキゼンベ墓地での墓参



秋味場(あきあじば)墓地での集合写真



発見した相見崎墓地の墓標



アカイシ浜での合同慰霊(能登呂(のとり)墓地・キリウシ墓地・相見崎(あいみさき)墓地)の様子



相見崎墓地付近からの景色

北方墓参第3班は、通常国後島古釜布沖で実施する出入域地点が、臨時的に水晶島台場岬沖に設置されて手続きが行われました。これにより渡航時間は大幅に短縮され、高齢者の方々の負担が軽減されました。

手続き終了後すぐに水晶島の茂尻消浜に上陸し、茂尻消墓地にて墓参。墓標の一部が激しく損傷していたため、団員自ら墓標を補修しました。その後、税庫前(ぜいこまえ)浜に再上陸しポッキゼンベ墓地で墓参。翌27日は秋味場浜へ再上陸し秋味場墓地で墓参し、水晶島の3つの墓地において墓参を執り行うことができました。

その後、波風が強くなったため、色丹島の穴澗方面に移動し停泊。翌28日も引き続き波が高く、色丹島の能登呂とキリウシへの上陸が困難であったため、相見崎方面に移動しアカイシ浜へ上陸。相見崎墓地は急斜面の上部にあるため、アカイシ浜にて能登呂墓地・キリウシ墓地・相見崎墓地の合同慰霊を行いました。

相見崎墓地は当初、探し当てることができませんでしたが、合同慰霊終了後に再度探索したところ、墓標を見つけ、探索した方々でお参りすることができました。